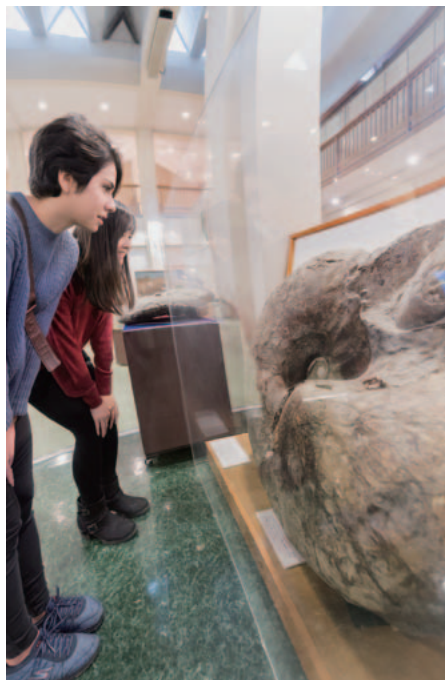


NU Topics

名大トピックス

No.298
2018年3月



座談会

人を伸ばす、明日を創る、世界と歩む

基金紹介

名古屋大学基金のお知らせ

名大ニュース／研究成果情報／学生の元気：アメリカンフットボール部 GRAMPUS／イベントカレンダー／
ちょっと名大史

座談会

人を伸ばす、 明日を創る、 世界と歩む



松尾 清一 総長



井上 拓海



富田 佐央里



永津 豪



三野 稜太

司会・構成



辻 篤子

国際機構特任教授



松尾 名古屋大学は様々な世界に踏み出す人材を支援しています。今日はベンチャーを志す皆さんの意見をお聞きし、これからの名古屋大学の在り方を考えたいと思います。

なぜ、ベンチャーなのか

辻 まず、皆さんの立ち上げたベンチャーの紹介を。
永津 ZAZA株式会社を立ち上げ、“airKitchen”という訪日旅行者と日本の食卓（ホスト）を結ぶwebサービスを提供しています。ホストは家庭料理を旅行者に提供することで収入が得られ、かつ世界中の人と交流できる。例えば、総長がホストに登録



「プロジェクトNU MIRAI」のキャッチフレーズである「人を伸ばす、明日を創る、世界と歩む」をテーマに、松尾清一総長と本学学生が、名古屋大学で学んでいることや、今後、期待することについて語り合います。



して今朝食べたものをサイトにアップし、外国からの旅行者がそれを見て「いいね」と思って登録すると、翌日、その料理を食べに総長の自宅に来る。現在、ホストが約150人集まっていて、これから訪日旅行者を対象にサービスを始めるところです。

井上 病院の外で心臓が止まる、いわゆる院外心停止の患者に対する救命用電子機器の開発をしています。高校生の時に肉親を院外心停止で失った経験から、これからは医療者が主体となった医療機器の開発が重要だと思い、勉強の一環として、先生や医療機器メーカーの方々のサポートを受けながら取り組んでいます。

三野 株式会社キスモという、人工知能技術を用いた様々な課題を解決する会社を昨年立ち上げました。現在注力しているのは、音声認識技術を用いたコールセンターの自動化で、学内の色々な研究室の知見をお借りしています。材料系の先生とは既に連携していますが、総合大学は連携先の宝庫だと思うので、どんどんネットワークを広げていきたいと考えています。

富田 名大生のための家庭教師のプラットフォーム事業を始めようとしている段階です。家庭教師をやりたいくても、斡旋会社の場合はシフトが固定されたり、留学のため長期間休みを取ろうとすると違約金を取られるなど、契約上のトラブルも多いと聞きます。そのため、個人契約ができるような環境作りを目指しています。

辻 皆さんが事業を始めようと思ったきっかけは何ですか。

三野 1年前、ある会社でインターンをしていたときの経験がきっかけです。この会社は、自社で開発した先端技術をあまり使っていない。研究部門と実務部門の乖離がとても激しかったのです。他の会社も同様で、これでは研究者として就職してもあまり面白くない。今ある研究を世にフィットさせる方が面白いので、起業しようと思いました。

永津 旅行でカンボジアへ行って、技術を見る目が変わりました。最先端技術を使った日本製の家電がカンボジアでは売れていない。バッテリーが鍵がかかる冷蔵庫が売れている。停電がよくあるし、中身をお手伝いさんが盗んだりするから。それまでは最先端技術が1番役に立つと思込んでいたけれど、最先端でなくても使う側が使いたい技術こそが大切だと思い知らされ、ショックでした。もっとビジネスを学びたいと、交換留学制度を使って工学とビジネスの両方で有名なイギリスのウォリック大学に留学し、帰国後に事業を興しました。

学業と事業、
両方が良い影響を与え合っている

ZAZA株式会社を2017年7月設立。食と旅行者をつなげるサイト“airKitchen”を提案し、アイデアピッチコンテスト2016で優秀賞、2018年「キャンパスベンチャーグランプリ全国大会」日刊工業新聞賞受賞。

ながつ こう
永津 豪

愛知県みよし市出身
大学院工学研究科博士課程前期課程1年





家庭教師紹介のベンチャーの準備中。

とみた さおり
富田 佐央里

愛知県北名古屋市出身
経済学部経済学科3年

何もしないで過ごす
「もったいなさ」を
学生自身が理解していない

松尾 世の中を変えるためにはニーズにマッチしないとダメだと思い、留学して勉強した。論理的ですね。でも、勉強していることと事業内容とがあまりにかけ離れているのでは？

永津 自分のやりたいことで、かつ初期費用などの点で実現可能な事業を考えてたどり着いたのが、留学中の経験に基づいたネット系の今の事業でした。ただ、工学研究科の学生としては最先端技術を使ったビジネスにももちろん関心があります。

富田 「プロジェクトリーダーシップ」という授業を2年生の時に受講し、半年かけて新規事業を考えるという経験をして、自分のアイデアを形にするこの面白さに気づきました。3年生になり、その後受講したTongaliスクールで意気投合した仲間と、実際にやってみることにになりました。

井上 このまま学問だけをしていると「普通の医者」になってしまう、周りに優秀な仲間が沢山いるので、自分は学問以外のところで頑張った方がいいんじゃないかと考え始めたんです。2年生になって東京で行われる医療経営などのゼミにも顔を出すうち、名古屋大学でもTongaliスクールが開講したので軽い気持ちで参加し、医療機器開発を進める先生に出会

いました。そのとき思い出したのは、高校の先生に、名古屋に行くなら名古屋でしかできないこと、つまり「ものづくり」をやれと言われたことでした。そこで、学生である6年間頑張り抜けて、失敗しても後悔しないことは何かと考えて、それは自分が救えなかった肉親を救えたであろう医療機器を開発することだと思ったんです。

松尾 学生ベンチャーの良いところはハードルが低いことですね。ある意味、気楽に踏み出せる。それでも、始めるのはエネルギーがいることだから、実際に踏み出した皆さんはすごいと思います。

学業との両立が「相乗効果」を生む

松尾 ところで、ベンチャーを始めることで、知識の幅が広がり、それが逆に自分の専門にもプラスになることもあるのでは？

富田 試験のために覚えたことはすぐ忘れますが、自分が積極的に取り組んだことは忘れないし、もっと学ばなきゃ、もっと経験を積まなきゃと思います。私の場合、3年生の授業は週に3コマだけで、ゼミもやるべきことをやっていればよいという感じなので、その時間を活かしています。

永津 最終的に人の役に立つべきだということを意識して研究に取り組むことができるようになったのは、大きな変化だったと思います。一方、研究でロジックを組んで深く掘り下げていくところは、事業を進める上で役に立つ。両方が良い影響を与えていると思います。

辻 学業との両立は大変ではないですか。

永津 研究が結構忙しいので、夜9時、10時まで研究室にいて、朝3時に起きたり。削れるのが睡眠時間しかないという感じです。

三野 僕は学習している内容が起業の根幹技術そのものなので、乖離はありません。ゼミや研究をおろそかにしたこともない。でも、起業するなら休学すべきだと周りから言われることがあるんです。リスクもあると。たとえ失敗しても、蓄えた経験は間違





いなく生きると思っているので、やるなという雰囲気があるのは残念です。

井上 僕は単位を落とさないようにすることに精一杯で、2日連続で徹夜することも多い。でも、自分の限界を知りたくてやっている面もあるので、まだいけるかな、とは思ってます。指導教員には「どんどんやれ」と励まされています。

松尾 私が参加している内閣府の「人生100年時代構想会議」では、今年10歳の子どもの半分以上が107歳まで生きるという試算が出ている一方、年金には頼れないから85歳まで働かなければならない、という議論もあります。技術の進歩で世の中は大きく変わっていくから、常に学び直しが必要になるけれど、普通に勉強して就職しただけでは追いつけない。そういう時代に「一体どんな人になっていくのか」というのは非常に大きな問題です。一言えるのは、学生の時にできるだけ裾野を広げておいた方がいいということです。ベンチャーがうまくいく確率はそう高くはないかもしれないけど、その経験やネットワークは一生役に立つと思います。

ロールモデルになり、周囲の心に火を点ける

富田 文系学部の人の中には、自由な時間でバイトに明け暮れる人や、家でただ寝ているだけの人もいます。そして、そうやって過ごすことの「もったいなさ」を学生自身が理解していない。私自身、2

年生までは自堕落な生活でしたが、今は1年前、2年前に戻りたいと思うくらい。もっと早く気づくことができればよかったと思います。有意義な時間の使い方があるんだよと、大学側が積極的に情報発信をすれば、学生の意識も変わるんじゃないでしょうか。

松尾 富田さんが言うように、アルバイトと睡眠で時間を使ってしまうのは、本当にもったいない。自分の目標があって、何かこれをやりたいと思ったときに人は変わる。そういう気づきや動機づけを大学としてやれたらと思っています。

井上 何かやりたいと思っても、その一歩が踏み出せない友人は僕の周囲にも沢山います。僕も最初はくすぶっていたけど、ちょっと頑張ったら思いがけず進んだ。僕の一つの役割は、くすぶっている友人に火を点けることだと思っています。彼らに火を点けて、あちこちで面白いことをやったら、日本の医療はもっといい方向に変わるんじゃないかと思っています。

三野 浪人時代、情報システムを作る側よりは情報を利用する側に立ちたいと思って、情報文化学部を志望しました。入学してみると、それぞれ色々な方面で優秀な人たちがいて、その人たちに触発されました。名古屋大学に来なかつたら起業してなかつたんじゃないかと思っています。

松尾 名古屋大学に来たら人が変わった、そうあってほしいです。皆さんはぜひロールモデルになってください。

僕の一つの役割は、
くすぶっている友人に
火を点けること

アイデアピッチコンテスト2016
に出場し、「スマホを用いた超小型
AEDの製作並びに普及」で最優秀
賞及びスーパー東海東京賞獲得。

井上 拓海

神奈川県横浜市出身
医学部医学科3年





総合大学 名古屋大学を“利用”しつつ

松尾 総合大学も沢山ある中で、名古屋大学ならではの良さは、色々な領域の学生が混じり合うようなプログラムを作っていること、そして外国人が多いことです。今では学生の8人に1人が留学生なんです。キャンパスにいながらにして、様々な国の、しかも名古屋大学に入るような優秀な外国人と知り合える。ここにいるだけで触発されますから、ぜひ機会を活かしてほしいですね。

井上 留学生が多くいる国際棟での授業に半年ほど出席したことがあるんですが、教室にいると前はアメリカ人、後ろはアフリカ人、横はヨーロッパ人という感じで、それぞれ全く視点が違う。ちょっと外に出てみると世界は広いんだと実感しました。様々な分野の先生に「ものづくり」の面で助言をいただけるのも総合大学だからこそと思っています。

永津 今の事業と一緒にやっている友人は文学部の学生です。彼と一緒に事業ができるのは名古屋大学にいるからだと思っています。

名古屋大学に来なかつたら
起業してなかつたんじゃないか



Deep Learningを中心としたAI技術を用いて様々なサービスを提供するベンチャー、株式会社キスモを2017年5月に設立。

みつの りょうた
三野 稜太

滋賀県野洲市出身
情報文化学部4年

辻 総合大学としての環境をとことん活かさないで、もったいないですね。

富田 女性として言いたいのは、教員も男性ばかりなので、ロールモデルがなく、女性としてのキャリアパスが見えなくて不安に思っている学生が非常に多いということです。起業という選択肢をはじめから排除している人も多い。最近は積極的な女性が増えてきたので、彼女たちに勇気を与えるようなイベントなどがあるといいなと思います。

松尾 名古屋大学は国連のHeForSheというプログラムで世界10大学の一つに選ばれ、様々な活動をしているんですが、あまり知られていないのは残念です。女性教員比率では名古屋大学は今、旧帝大の中では1番です。でも、女性教授はまだまだ少なく、執行部も男性ばかりです。もっと裾野を広げるために、男女共同参画室をセンターに格上げしたので、皆さんもどんどん参画してほしいと思っています。

Tongali (とんがり) プロジェクト

Tongaliプロジェクトとは、名古屋大学における起業家育成の拠点です。Tongali人材、Tongali企業のための教育、育成、支援を行い、大学発ベンチャーの創造と拡大支援を行っています。

スクール・コンテストの1年の流れ



司会・構成

辻 篤子 国際機構特任教授

1976年東京大学教養学部教養学科科学史科学哲学分
科卒業。
79年朝日新聞社入社、科学部、アエラ発行室、アメリ
カ総局などで科学を中心とした報道に携わり、2004
～13年、論説委員として科学技術や医療分野の社説
を担当。
11～12年には書評委員も務め、16年10月から現職。



今のうちにどんどん失敗を

辻 皆さんから後輩にアドバイスを。

永津 留学や起業支援などの制度を活用すること、そして、せっかく色々な学部があって色々な人がいるんだから、沢山交流して、ちょっと背伸びして、失敗して、自分がやりたいと思うことをどんどんやってほしいと思います。

井上 僕自身、もう何十回も失敗しているし、今もまだうまくいか分からない。どんな経験でもそのすべてが今後につながるんだと信じて、大学を最大限に活用してほしいです。

三野 学術憲章にも書かれている「勇気ある知識人」とは、1番失敗している人なんじゃないかと思うんです。飛び込んで失敗する。その繰り返して成長し、何でもできるようになる。社会に出ると失敗する余裕がなくなるので、今のうちにどんどん失敗しましょう。僕の人生、失敗しかありません（笑）。

松尾 その通りですね。プロ野球の野村元監督の語録に「失敗と書いて成長と読め」というのがあります。若い時の失敗は必ず糧になる。失敗を恐れずに進んでほしい。

富田 大学に入ることは決してゴールではない。どういう大学生活を送るかは、その後の人生に大きな影響があるという意識を持って過ごすことが大切ではないかと。そういう意識があるかないかで、同じ情報に接しても反応が違ってくると思います。

松尾 先ほど言ったように、100歳まで生きる時代になったのだから、自分の興味や活動を広げておかないと、一生を全うできないという悲惨なことになりかねません。そのスタート地点が大学です。若い皆さんには、勉強もちろん大事だけど、できるだけ多様な経験をしてほしい。ベンチャーでも国際活動でも何でもいい。要は主体的に何かをやるのが大切だと思っています。

先を見据えて人を作っていく

松尾 最近、改めて教える側の責任の大きさを痛感します。決まりきったことを教えていけば、今のところは困らないけれど、そうやって社会に送り出した学生の20年後、30年後を見据えているかという、必ずしもそう思えません。教える側の意識改革が必要です。今まで通りの人材育成をしていたのでは、就職する時はよくても、いずれ行き詰まる。社会も、そんな人材ならいらぬ、積極的に提案をして現状を打破してくれる人がいいと言い出す。ましてや名古屋大学なんだから、リーダーが求められている。

辻 若者たちの心に火をつけ、挑戦を支える大学になるべきですね。最後に総長の決意を。

松尾 総長になって約3年が経ちましたが、次の3年で大学を根本的に変えたいと思っています。教員がもっと教育・研究に集中できるような環境を作るために、余分なことはそぎ落とす。そして勉強したい学生を徹底的に支援し、彼らが混ざり合う環境を作りたい。世界が大きく変わっていく中で、先のことを考えて人を作っていくのが大学の役割ですが、まだ充分に果たせていないと思うので、きちんと期待に応えたい。それが私の責任だと思っています。まだ、試行錯誤しているところですが、これからの名古屋大学に、是非、期待してください。



名古屋大学基金のお知らせ

名古屋大学基金の支援事業

名古屋大学基金では、さまざまな事業のもとに学生の奨学支援を行っています。

寄せられた皆様のご厚志は、国内外の学生の勉学意欲に応え、本学の学術憲章に掲げる「勇気ある知識人」への成長を支えています。

支援の実績（2016年）

□ 海外派遣日本人学生給付金 ……………	支援学生	105人	□ G30学部留学生奨学金……………	支援学生	74人
□ アジアサテライトキャンパス奨学金 ……	支援学生	16人	□ 下駄の鼻緒奨学金 ……………	支援学生	4人
□ ホシザキ奨学金 ……………	支援学生	5人 → 22人（2018年予定）			

奨学生からのメッセージ

G30学部留学生



人生で一番良い
選択だったと、
自信を持って言えます

韓国の高校生だった私は、ある時、偶然、名古屋大学のGlobal 30というプログラムを見つけました。当時の私は全く日本語を話せませんでしたが、日本語を勉強しながら世界各国からの友達と英語で授業を受けられることに魅力を感じ、挑戦することに決めました。そして試験を受けたところ、合格しただけでなく奨学金もいただけることになり、とても嬉しかったです。

それまで私は一人で生活したことも、英語で会話したこともなく、初めの頃は辛いこともありました。しかし、奨学金のおかげで勉強に集中できたことで、成績は徐々に上がっていき、世界の人々と会って視野も広がってきました。日本語能力試験一級にも合格し、カナダへの交換留学ではさらに多くの人と友達になりました。

名古屋大学に入って、学ぶことのできる幸せを感じながら、自分の新しい能力を発見したり、視野を広げたりすることができました。韓国の友達や後輩に会うと、「人生で一番の選択をしたのだ」と自信を持って話しています。

特定基金事業

研究推進や人材育成など、支援目的を特定してご寄附いただけます。

 工学部・工学研究科 支援事業	 青色 LED・未来材料 研究支援事業	 アジア法律家育成 支援事業	 名高商・名大経済学部・ 経済学研究科 100周年記念支援事業
 女性リーダー育成 支援事業	 ジェンダー平等 支援事業	 医学系未来人材 育成支援事業	 医学部附属病院 支援事業
 大学発ベンチャー 応援事業	 次世代保健医療 リーダー育成支援事業	 農学部・生命農学研究科 支援事業	 トランスフォーメティブ 生命分子研究所支援事業
 名古屋大学附属 図書館支援事業	 教育学部附属中・ 高等学校 75周年記念 国際化推進支援事業	 創薬科学研究科 支援事業	 名古屋大学 修学支援事業
 PhD 登龍門 支援事業	 理学部学生 支援事業		

(平成30年2月末現在)

◆トピックス

坂本精志様、坂本春代様へ紺綬褒章を伝達

平成28年3月に坂本ドネーション・ファウンデーション株式会社から1,600万円、同年10月には坂本ドネーション・ファウンデーション株式会社の株式(約70億円)を坂本精志様、坂本春代様から名古屋大学基金へ寄附していただきました。このご寄附は、紺綬褒章の授与対象となり、内閣府で閣議決定され、公布されました。

これを受けて、平成29年1月23日(火)に名古屋大学において、松尾総長からお二人に紺綬褒章(褒章、褒状及び木杯)の伝達を行いました。

紺綬褒章とは、公益のために私財(個人500万円以上、団体1,000万円以上)を寄附した方に授与されるものです。名古屋大学基金にはいただいた募金を運用し、その運用益で、本学の学生へ奨学支援を中心に行っているものと、今回の坂本様ご夫妻からのご支援のように、使途目的を指定した特定基金との2種類があります。今後とも引き続きご支援くださいますよう、お願い申し上げます。



坂本精志様への伝達の様子



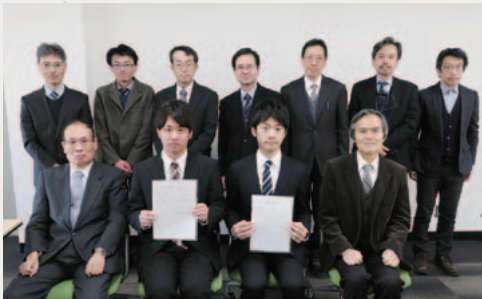
坂本春代様への伝達の様子

詳細は名古屋大学基金ホームページへ (こちらから寄附手続きが可能です)
<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/kikin/>



12/21

第1回水谷奨学金授与式を挙行 ■大学院生命農学研究科



授与式後の奨学生と列席者

第1回水谷奨学金授与式を、農学部管理棟1階大会議室において挙行了しました。水谷奨学金は、水谷正子様から「農学部・生命農学研究科教育研究基金」にいただいた寄附により設立された奨学金であり、水谷様及び仲介者である山根恒夫本学名誉教授のご意向により、大学院生命農学研究科博士後期

課程に進学する学生に対し、月額10万円を3年間支給するものです。授与式では、川北本研研究科長から2名の奨学生に対し、採用決定通知書が授与されました。また、山根名誉教授からは、欠席された水谷様のメッセージが紹介され、これを受けて各奨学生から謝辞と今後の抱負が述べられました。

1/20

ICCAE 第3回オープンセミナーを開催 ■農学国際教育協力研究センター (ICCAE)



小田部専任課長による講演の様子

2017年度第3回オープンセミナー「天然ゴムにおける日系企業の活動」を、農学部大会議室において開催しました。天然ゴムは、ゴム分子が三次元網目構造を形成しているため大型トラック等のタイヤの素材や、地震対策用の免震システムにも欠かせない物質です。外科手術用ゴム手袋などの医療材

料においても、薄くて弾性に富む筒状製品を作るには天然ゴムラテックスが必要で、これらは合成ゴムでは代替できません。講師である小田部庄祐大塚化学株式会社専任課長が、天然ゴム製造に必要な添加剤の新規開発について解説し、日系企業による取り組みを知る機会となりました。

1/20

国際シンポジウム「1930年前後の文化生産とジェンダー」を開催 ■大学院人文学研究科



シンポジウムの様子

大学院人文学研究科附属「アジアの中の日本文化」研究センターが主催する国際シンポジウムを、1月20日、21日、ジェンダー・リサーチ・ライブラリにおいて開催しました。また、1月16日から21日まで、展示「『女人芸術』という回路」を同時開催しました。中谷いずみ奈良教育大学准教授、呉 佩珍国立政治大

学(台湾)准教授、李 惠鈴成均館大学(韓国)准教授、笹尾佳代神戸女学院大学准教授、木下千花京都大学准教授、サラ・フレデリック ボストン大学(米国)准教授、星野幸代本研研究科教授、飯田祐子本センター教授が登壇し、アジアという視座から人文学領域を広く横断する議論が交わされました。

1/24

東海スタートアップカンファレンス2018を開催 ■学術研究・産学官連携推進本部



パネルディスカッションの様子

東海地区のベンチャー創出を、より活性化することを目的に、本学を中心とする東海地区5大学の起業家育成プログラム「Tongaliプロジェクト」、中部オープンイノベーションカレッジ、中部ニュービジネス協議会が主催する東海スタートアップカンファレンス2018をミッドランドホールにおいて

開催しました。基調講演では大前研一株式会社ビジネス・ブレイクスルー代表取締役社長が、オープンイノベーションとベンチャー創出のため、時代に沿った環境作りの重要性を強調しました。続くパネルセッションでは、活発な討論が行われました。

1/31 ミニ展示会「漢方の世界」と特別講演会「我が国の伝統医学『漢方』の底力」を開催 ■附属図書館医学部分館



特別講演会の様子

昨年7月3日から1月31日までの間、医学部図書館2階入口ホールにおいて、第16回ミニ展示会「漢方の世界」を開催しました。高齢化による疾病構造の変化やストレス社会といった問題の下、漢方医学の個人差を踏まえた全人的な治療が患者の生活の質を向上するものとして見直されています。

昨年10月16日には佐藤寿一医学系研究科講師による特別講演会「我が国の伝統医学『漢方』の底力」を医学部基礎研究棟1階会議室2において開催しました。当日は悪天候にもかかわらず28名が来場し、佐藤講師への質問が多くありました。

2/1 「女性研究者が輝く名古屋大学」記念講演会—郷 通子理事瑞宝中綬章受章記念—を開催 ■大学院理学研究科、男女共同参画センター



郷理事の講演の様子

平成29年秋の叙勲において、郷 通子理事が「男女共同参画社会形成推進功労・教育研究功労関係」分野の功績により、瑞宝中綬章を受章され、これを記念し、記念講演会ならびに懇談会を、理学南館（坂田・平田ホール）において開催しました。講演会では、松尾総長、来賓の方々からの祝辞に続い

て、郷理事がこれまでの研究生活を振り返りつつ、研究を進めていく上でのターニングポイントや周囲の協力などについて講演されました。その後、女性研究者によるパネルディスカッションが行われ、講演会終了後の懇談会では、研究や男女共同参画の話題に花が咲き、皆で受章の喜びを分かち合いました。

2/27 平成30年度個別学力検査（前期日程試験）を実施



試験に臨む受験者

平成30年度名古屋大学個別学力検査（前期日程試験）が、2月25日から27日の3日間、東山地区、大幸地区及び鶴舞地区の各試験場で実施されました。今年度は募集人員1,734名に対して、志願者数は4,752名となりました。初日及び2日目は、両日とも午前10時から筆記試験が、3日目は、医学部医

学科の受験生に対する面接試験が実施されました。全ての日程を無事終了し、合格発表は3月8日に行われました。

ブレイクタイム 平成29年度 名大3大ニュース!!

1位 「プロジェクトNU MIRAI」キャッチフレーズ決定

2019年（創立80周年）、2020年（豊田講堂及び名大祭60周年）、2021年（創基150周年）と連続して周年を迎えるにあたり、各周年を一連の期間として捉え、これに向けた行事・事業を「プロジェクトNU MIRAI」として実施することになり、キャッチフレーズを「人を伸ばす、明日を創る、世界と歩む」としました。このキャッチフレーズをロゴマークと併せて活用して、周年事業を推進していきます。

人を伸ばす、明日を創る、世界と歩む



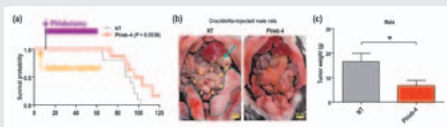
2位 本学特任助教、宇宙線観測によりクフ王のピラミッド中心部に未知の巨大空間を発見

3位 11月、ジェンダー・リサーチ・ライブラリ開館

悪性中皮腫の新たな予防法に期待！ —瀉血療法による発がん予防—

Point

- アスベスト（石綿）の一種であるクロシドライト（青石綿）を腹腔内注射した雄の悪性中皮腫モデルラットに対して瀉血（鉄除去）を充分量行くと、生存期間延長効果が見られた
- 同瀉血ラットでは腫瘍重量、腹水重量の減少が見られた
- 同瀉血ラットでは組織学的な悪性度の低下が見られた



関係する大学の教員等

大学院医学系研究科 豊國伸哉教授 大原悠紀大学院生

肩甲骨の位置は絶滅動物の復元骨格の最大のナゾ

—胴体の揺れと骨格の強さから解明—

Point

- 絶滅動物の骨格は、関節から骨の位置関係の大部分を明らかにできるが、胴体と関節を介さない肩甲骨は、その位置を知る手立てがなかった
- 現生の四足歩行動物では、肩甲骨の位置が胴体前方の正中寄りに位置するという共通点が見出された。また、この位置は、四足歩行する動物にとって、前肢で胴体をバランスよく支え、かつ、胴体の骨格に与える負担を抑制するのに最適であることが、三次元筋骨格シミュレーションから示された。この発見は、絶滅動物の全身骨格の復元の大きな手掛かりとなる



関係する大学の教員等

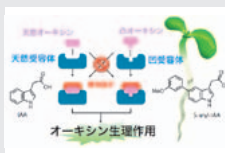
博物館 藤原慎一助教

有機化学と合成生物学を駆使して 植物ホルモンの作用をハイジャック！

—化学の力でダーウィンの見つけた植物の運動の謎に迫る—

Point

- bump-and-hole法（凸凹法）という分子設計技術を用いて、天然のオーキシン受容体には結合できない凸オーキシンおよび凸オーキシンのみに結合する凹受容体を創出した
- 凹受容体は植物の特定の部位に自在に導入できる。凹受容体によって認識された凸オーキシンは天然のオーキシン同様に多彩な生理作用を誘起できるが、改変凹受容体を持たない自然界の植物には作用しない
- 凸オーキシンと凹受容体のシステムを利用することにより、オーキシンによる植物の素早い伸長（酸生長）を引き起こす仕組みを明らかにした 等



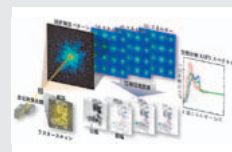
関係する大学の教員等

トランスフォーマティブ生命分子研究所 鳥居啓子客員教授（ワシントン大学教授）
打田直行特任准教授 伊丹健一郎教授 木下俊則教授
大学院理学研究科 萩原伸也准教授 高橋宏二助教
遺伝子実験施設 多田安臣教授

タイコグラフィ-X線吸収微細構造法の開発 —酸素吸蔵・放出材料の酸素拡散分布を可視化—

Point

- X線のコヒーレンスを利用した硬X線タイコグラフィを用いて試料のX線吸収微細構造（XAFS）法を取得するタイコグラフィXAFS法を開発した
- 50 nm以下の空間分解能で、排ガス浄化助触媒となる酸化物固体粒子内部のセリウムの価数分布をイメージングした
- 酸素吸蔵過程の中途状態にある粒子に対して、セリウムの密度と価数の相関を解析することで、酸素拡散の過程に複数の異なる反応様式が存在することを発見した



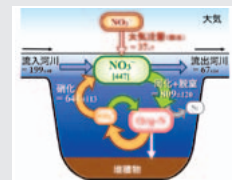
関係する大学の教員等

物質科学国際研究センター 唯 美津木教授
大学院理学研究科 松井公佑助教

琵琶湖における年間硝酸生産量の 定量に成功！

Point

- 栄養塩である硝酸（NO₃⁻）が湖内全域で硝化菌によって生産される速さ（総硝化速度）を定量化する新手法を開発した
- 新手法は、湖沼に溶存する硝酸の自然同位体組成を利用する。現存量を測定するだけで定量できるので、従来法で必須だった培養操作や人工トレーサーの添加は不要で画期的である
- 琵琶湖に応用した結果、硝化菌によって硝酸が生産される速さは、河川からの流入速度の3倍を超えていることや、夏に速く、冬に遅くなる季節変化をしていることが明らかになった



関係する大学の教員等

大学院環境学研究科 角皆 潤教授 中川書子准教授

北極の硝酸エアロゾルはNO_x排出抑制に 関わらず高止まり

—過去60年のグリーンランド氷床に記録された北極大気NO₃⁻フラックスの変遷—

Point

- グリーンランドで約90mのアイスコア掘削に成功し、氷床アイスコア最高の年代精度で過去60年の北極大気環境を復元した
- 21世紀の北極硝酸エアロゾルフラックスが、周辺国のNO_x（窒素酸化物）の排出抑制政策による減少割合を反映しておらず、産業革命以後に増大して以来高い値を維持していることを解明した
- 21世紀の硝酸エアロゾルの状況把握・原因究明は、将来の環境変動への影響評価に重要である



関係する大学の教員等

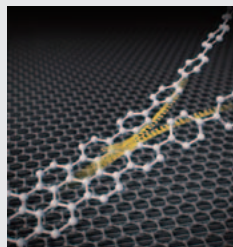
大学院環境学研究科 藤田耕史准教授

ナノグラフェンをジッパーのようにきれいに 作ることに成功

—ベンゼン環を精密につなぎ合わせる新しい触媒反応—

Point

- ベンゼン環をジッパーでつなぐようなナノグラフェンの効率的な合成法を開発した
- 新触媒反応でジッパーの留め具部分（起点）となる環構造の構築を実現した
- 単一構造のナノグラフェンの短工程合成の実現や新しい機能性材料の開発に道を拓くなど、ナノカーボン科学への応用が期待される



関係する大学の教員等

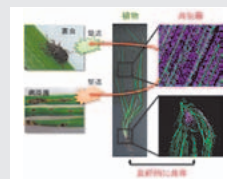
トランスフォーマティブ生命分子研究所
伊丹健一郎教授 村上 慧特任准教授
大学院理学研究科 古賀義人大学院生

共生菌が植物と共存するメカニズムを解明！

—共生菌を用いた病害虫防除技術への応用にも期待—

Point

- イネ科牧草／芝草に感染する共生菌であるエピクロ工属エンドファイトは、植物を害虫や病原菌から守る性質があり、牧畜が盛んな国々で牧草の害虫防除に広く活用されている
- エンドファイトは、植物と共存するために独特な感染メカニズムを持っている。本研究では、共生菌が植物と共存するために必要な2つの遺伝子の役割を明らかにした
- 共生菌が植物との共生を維持するメカニズムを明らかにすることで、共生菌のもつ植物を守る特性を農業現場で広く活用する技術の確立が期待される



関係する大学の教員等

大学院生命農学研究科
竹本大吾准教授 榎野友香大学院生 田中愛子博士研究員

他の研究成果や詳細はホームページをご覧ください。

名古屋大学 研究教育成果情報



<http://www.nagoya-u.ac.jp/about-nu/public-relations/researchinfo/index.html>



ブレイクタイム



名古屋大学消費生活協同組合の紹介！



より快適な食環境と充実したメニュー提供を目指して

1977年4月、北部厚生会館食堂（北部食堂）は、「セットメニュー」「お寿司」「グリル（洋風レストラン）」としてオープンしました。以来40年にわたって、セットでの提供を行っていましたが、組合員の方々の食に対する多様な要望に応じていくため、2017年10月から、カフェテリア方式での提供方法に変更しました。また、より快適にご利用いただくために「食器返却口」の改善や、椅子やテーブルの更新を実施してきました。

グリーンサロン東山内のレストラン花の木では、2017年10月からメニューを刷新し、「花の木（日替わり）」をはじめ、「丼麺セット」「ヒレカツカレー（花の木オリジナル）」が人気メニューとなっています。



生協食堂食事定期券「食堂パス」の取り組み

『大学生活4年間、規則正しく、バランスと栄養を考えた食生活を送ってほしい』という保護者の方々の願いの実現に向けて、「食堂パス」を2017年度新入生に提案し、取り組みを進めてきました。

食堂パスは、1年間の食事代を前払いし、1) 毎日の食事代をきちんと確保し、2) お得に食べることができて経済的、3) 食事の履歴や摂取カロリー・栄養状況が確認でき、健康的で安心な食生活をサポートすることをおすすめポイントとした仕組みです。2017年度は新入生の5割超の方が申込み、利用しました。

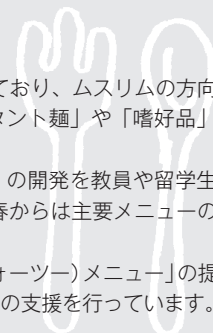


留学生の食生活サポートと社会貢献

留学生のキャンパスにおける食生活のサポートにも努めており、ムスリムの方向けの「ハラール（推奨）メニュー」の提供や、購買での「インスタント麺」や「嗜好品」の販売を行っています。

あわせて「ベジタリアンメニュー」「ベジタブルカレー」の開発を教員や留学生とともに進め、店舗を通じて提供しています。また、2017年春からは主要メニューの英語表記（ローマ字表記）を開始しました。

ほかにも、社会貢献の取り組みとして「TFT（テーブルフーズ）メニュー」の提供を通じて、開発途上国の子供に学校給食をプレゼントする活動の支援を行っています。



学生の元気

サークル活動紹介

アメリカンフットボール部 GRAMPUS

歴史的瞬間

歴史が変わった瞬間でした。2017年 GRAMPUSは、東海学生アメリカンフットボールリーグ2017年秋季リーグで、創部以来、初の全勝優勝を果たすことができました。チームスローガンとして歴史・仲間・想い・行動・勝利の5つを「紡ぐ」ということを掲げ、「打倒名城、東海制覇」という目標を達成することができました。一つ一つの勝利を大切に、選手・スタッフ関係なく勝ちに向かうことで掴むことができた快挙です。

打倒関西

GRAMPUSの歴史が変わった瞬間に立ち会った我々が次に進むべき道はどこなのか。代替わりを経て新チームを迎える時、最上級生を中心に方向性について話し合いました。そこでGRAMPUSとして成長し続けるために、次に掲げた目標は「打倒関西」です。この目標に対して主将の川村洋志さん工学部3年生は次のように意気込んでいます。「今年、関西に勝つた

めに必要なもの、それは“当たり前前のレベルをあげる”“責任を持った行動をする”の2つです。去年、関西学院大学と戦い感じた差、それが当たり前前のレベルです。それは試合に限ったことではなく、ウォーミングアップや整列といった所作や私生活に至るまで全ての行動です。それらのGRAMPUSの当たり前前を関西の当たり前前に近づけること、それが関西に勝つための一番の近道だと考えました。

また、GRAMPUSは他の学校とは違い、学生主体のチームです。その強みとして、チーム全員がチームのことを考えて行動できる点があります。全員が自分の役割に責任を持ち、その行動に覚悟をもってやりきること、それが学生主体のチームのあるべき姿です。

去年一年でGRAMPUSの歴史は次に進みました。その歩みを止めないためにも、我々は『関西』を目指します。」

これからも、東海学生リーグ優勝という結果に満足せず、GRAMPUSは常に走り続けていきます。



川村主将



優勝を記念して2月22日に名古屋大学駅構内で清掃の奉仕活動を行いました！

他にも、こんな学生の活躍がありました！



- ◆教育学部附属中学校3年生の藤井聡太さんが六段に昇段！
- ◆第36回ジャンボ団体囲碁選手権大会において囲碁部が星組（制限クラス）で優勝！

博物館スポット展 「人類を進化させた石器—アフリカと西アジアにおける原人・旧人・新人の遺跡調査」

2月13日(火)～4月14日(土)
場 所：博物館 2階展示室
時 間：10:00～16:00
休 館 日：日・月曜日、
3月26日臨時開館
入 場 料：無料



[問い合わせ先] 博物館事務室 052-789-5767

博物館野外観察園セミナーハウスサテライト展示 「博物館友の会写真サークル 写真展」

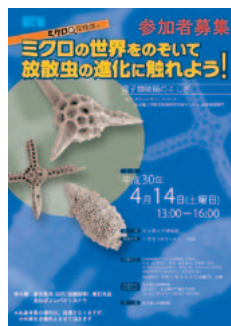
4月5日(木)～5月11日(金)
場 所：博物館野外観察園
セミナーハウス 2階
時 間：10:00～16:00
休 館 日：土・日・祝日
入 場 料：無料



[問い合わせ先] 博物館事務室 052-789-5767

ミクロの探検隊® 「ミクロの世界をのぞいて放散虫の進化に触れよう!—電子顕微鏡のふしぎ」

4月14日(土)
場 所：博物館 2階実験室
時 間：13:00～16:00
定 員：24名
対 象：小学5年生以上、一般
参 加 費：50円(保険料等)



[問い合わせ先] 博物館事務室 052-789-5767

NU Cheers!

受験生のための名古屋大学発見サイト「**NU Cheers!**」では、名大生が**講義やサークル等の大学生活や、受験勉強法**等の受験生必見の情報を紹介しています。その他、学生レポーターが取材した式典・講演会等のイベントの様子も掲載しており、アカデミックなトピックスも数多く紹介しています。



名古屋大学 チアーズ

<http://jukensei.jimu.nagoya-u.ac.jp/index.html>

名大情報
発信中!

公式ホームページ

<http://www.nagoya-u.ac.jp>

公式ソーシャルメディアアカウント



名古屋大学公式 Facebook

<https://www.facebook.com/Nagoya.Univ.info>



名古屋大学公式 Twitter

https://twitter.com/NagoyaUniv_info

名大ウォッチ

<http://www.meidaiwatch.iech.provost.nagoya-u.ac.jp>

2/26

もう一つのトランスフォーマティブ



他のイベント及び詳細はホームページをご覧ください。

名古屋大学 イベント情報



<http://www.nagoya-u.ac.jp/event/index.html>

NU Topics

名大トピックス

No.298 | 2018年3月 |

2018年3月14日発行

編集・発行/名古屋大学総務部総務課広報室

本誌に関するご意見、ご要望などは広報室にお寄せください。

〒464-8601 名古屋市千種区不老町

TEL 052-789-2699 FAX 052-789-2019

E-mail: kouho@adm.nagoya-u.ac.jp

名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ (<http://www.nagoya-u.ac.jp/about-nu/public-relations/publication/index.html>) でもご覧いただけます。



最新の本学関係の新聞記事掲載一覧は、ホームページをご覧ください。

名古屋大学 新聞記事掲載状況



<http://www.nagoya-u.ac.jp/about-nu/public-relations/newspaper/index.html>

理工科学総合研究センター —「先端性と調和」をめざして—

名古屋大学の附置研究所である未来材料・システム研究所は、2004(平成16)年にエコトピア科学研究機構(学内措置)として設置されました。翌年にエコトピア科学研究所(学内措置)と改称、2006年に附置研究所となりました。2015年10月に未来材料・システム研究所として改組されて現在に至ります。

エコトピア科学研究機構が設置される際、統合されてその中核となったのが理工科学総合研究センターです。同センターは、1963(昭和38)年に設置された工学部附属人工結晶研究施設をその前身としています。同施設は、設置時には1部門のみでしたが、のちに3部門(うち1つは客員部門)体制となりました。

1995年4月に設置された理工科学総合研究センターは、人工結晶研究施設の改組という形をとりながらも、9部門(研究テーマ)と研究体制が大幅に拡充さ

れました。9部門の上位には、「総合基礎材料科学」、「総合エネルギー科学」、「総合環境システム科学」といった未来材料・システム研究所を想起させる3つのリサーチグループが置かれました。

「理工科学」とは、理学と工学を融合し、関連する医学や経済学等の思想・概念、手法、成果を導入して、人間・自然と調和した科学技術の創成をめざす総合的分野とされました。松尾 稔初代センター長は、センター全体の中心的なコンセプトは、「先端性と調和」の同時追求にあるとしています。

こうしたセンターの理念は、現在の未来材料・システム研究所のみならず、2000年に全国の大学に先駆けて制定され、「人間性と科学の調和的発展」をめざすことをうたった名古屋大学学術憲章にも継承されています。



2



4



1



3

- 1 「理工総研ニュース」創刊号。同ニュースは1995年11月に創刊、以後1年度に2号のペースで発行され、2004年5月の第26号が最終号となった。
- 2 松尾 稔第11代総長(1936-2015)。理工科学総合研究センター長を務めた後、1998年に総長就任、学術憲章を制定するとともに、エコトピア科学研究機構の設置を推進した。
- 3 理工科学総合研究センター寄附研究部門創設記念祝賀会(1996年5月23日)。1996年4月から理工科学総合研究センターに創設されたエネルギーシステム(中部電力)寄附研究部門は、名古屋大学では初めての寄附研究部門であった。
- 4 2000年3月に理工科学総合研究センターの固有施設として完成した総合研究実験棟(写真は完成当時)。東山キャンパス東端部に位置し、現在は未来材料・システム研究所の施設となっている。

BRIEF HISTORY OF NAGOYA UNIVERSITY

人を伸ばす、明日を創る、世界と歩む



プロジェクト
NU MIRAI

名古屋大学基金のご案内

名古屋大学が優れた人材輩出や世界的な研究成果により、今後も日本や地域に貢献し続けるには、安定した独自財源が必要です。「名古屋大学基金」はその基盤であり、皆様からのご寄附を、さまざまな事業に活用させていただきます。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

特定基金

名古屋大学基金の中には、研究推進や人材育成など、支援目的を特定してご寄附いただける事業もご用意しております。



ご寄附のお申込み、お問い合わせは Development Office (DO室) あて(電話052-789-4993、Eメールkikin@adm.nagoya-u.ac.jp) をお願いいたします。詳しくはホームページをご覧ください。

名古屋大学基金



<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/kikin/>

アクセスはこちらから▶

